

開催趣旨

無縁社会の到来が叫ばれている。高齢単身者の孤独死、介護放棄、児童虐待、配偶者への暴力、離婚、貧困、非正規労働者の苦難、単身者の寂寥などが多く報告される時代となった。家族の絆が弱くなり、地域住民の連帯感が薄くなり、企業は従業員を簡単にリストラする。血縁、地縁、社縁が弱まったのである。

あの激しい東日本大震災は、あらためて人の縁を思い起こさせた。家や財産、仕事、そしてかけがえのない家族、故郷を失った東北地方の人々が、互いに助け合い、励まし合う姿に接するにつけ、日本では血縁、地縁はまだ生きていけるのではないかと念を抱かせるのに十分な情報が伝わってきた。

まだ地方を中心に血縁、地縁でつながる人は多く、無縁社会の中に置かれている人は、数の上では実は少数派かもしれない。社縁に関しても終身雇用制を保持している企業がある。それでもなぜ無縁社会が問題になるのか、それは高齢者の孤独死、児童虐待などといった諸現象があまりにも悲惨で人の心を大きく悲しませるからである。

無縁社会によって引き起こされる状況に我々はどう対応すればよいのか、皆さんとともに考えたい。

出演者紹介

(敬称略・順不同)

香山 リカ (かやま りか) 精神科医・立教大学現代心理学部教授

東京医科大学卒。学生時代より雑誌等に寄稿。その後も臨床経験を生かして、新聞、雑誌で社会批評、文化批評、書評なども手がけ、現代人の“心の病”について洞察を続けている。専門は精神心理学だが、テレビゲームなどのサブカルチャーにも関心を持つ。著書に『悩みの正体』(岩波新書)、『〈不安な時代〉の精神病理』(講談社現代新書)、『3・11後の心を立て直す』(ベストセラーズ)など多数。



湯浅 誠 (ゆあさ まこと) 反貧困ネットワーク事務局長

NPO法人自立生活サポートセンター・もやい事務局次長、内閣府参与。90年代より野宿者(ホームレス)支援に携わる。「ネットカフェ難民」問題を指摘し火付け役となるほか、貧困者を食い物にする「貧困ビジネス」を告発するなど、現代日本の貧困問題を現場から訴えつづける。2008~09年、年末年始の「年越し派遣村」では村長を務める。著書に『反貧困』(岩波新書、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞大賞、第8回大仏次郎論壇賞)、『貧困襲来』(山吹書店)など多数。



撮影：中川 賢俊

落合 恵美子 (おちあい えみこ) 京都大学大学院文学研究科教授

東京大学大学院社会学研究科単位取得。社会学者。家族やジェンダーをめぐる問題を中心的に研究。フェミニズムの立場から社会的発言も行ってきた。現在は「ケアするアジア」を研究テーマに、アジア各地で子育てや高齢者ケアがどのような人間関係や制度に支えられているのかを比較調査している。著書に『21世紀家族へ—家族の戦後体制の見かた・超えかた』(有斐閣)、『21世紀アジア家族』(共編著、明石書店)など多数。



橘木 俊詔 (たちば なき としあき) 同志社大学経済学部教授・ライフリスク研究センター長

ジョーンズ・ホプキンス大学大学院修了(Ph.D.)。仏英米独での研究・教育を歴任して、大阪大学を経て京都大学教授。現在は同志社大学経済学部教授。元・日本経済学会会長。専攻は労働経済学・公共経済学。著書に『格差社会』(岩波新書)、『安心の経済学』(岩波書店)、『安心の社会保障改革—福祉思想史と経済学で考える』(東洋経済新報社)、『日本の教育格差』(岩波新書)、『無縁社会の正体』(PHP研究所)など多数。



プログラム

(敬称略・順不同)

司会 伊多波 良雄 (同志社大学経済学部教授)

第1部 13:00-13:05 開会挨拶

田端 信廣 (同志社大学副学長)

13:05-13:35 基調講演「無縁社会の正体」

橘木 俊詔 (同志社大学経済学部教授・ライフリスク研究センター長)

13:35-14:30 パネリストプレゼンテーション

香山 リカ (精神科医・立教大学現代心理学部教授)

落合 恵美子 (京都大学大学院文学研究科教授)

湯浅 誠 (反貧困ネットワーク事務局長)

休憩 14:30-14:45

第2部 14:45-15:40 パネルディスカッション

香山 リカ / 湯浅 誠 / 落合 恵美子 / 橘木 俊詔

15:40-16:00 質疑応答

伊多波 良雄 (いたば よしお) 同志社大学経済学部教授

同志社大学大学院経済学研究科修了。経済学博士(同志社大学)。現在は同志社大学経済学部教授。専門は公共経済・地方財政。よりよい暮らしを提供する財政制度を模索。主要著書に『地方分権時代における地方財政』(有斐閣)、『公共政策のための政策評価手法』(中央経済社)、『貧困と社会保障制度』(晃洋書房)など多数。

